

東京圏の高齢者の地方移住。高齢者が増加し介護職員が不足する中、この政策はみんないかに考えなければいけないものだと思います。東京圏では今後10年間で75歳以上の高齢者が175万人増加。移住を進めなければ医療・介護サービス不足が深刻化し、地方では東京圏への人材流出で人口減少が進むと予測されています。東京圏での供給不足を補うために地方から人がいなくなる。これはとんだ悪循環である。ただでさえ人口減少問題があらゆる地方で起きているのに、これ以上人口減少が進むと地方はもうなつていくのだらう。若者が東京圏へ流れ込み、高齢者しか残らないという事態もあり得るかもしれない。しかし、地方移住は人口減少問題に少なからず効果がある。都市の維持には一定の人口が必要で、元気な高齢者の移住はむしろ歓迎ということだ。確かに少子化が進んでいる今、高齢者はとても重要な消費者となつてきている。これからも高齢者の数は増加していくから、それ

は変わらないう。移住者の消費が地域経済に与える影響は大きいと思う。ここまぶで見るとメリットは大きい気がするが、やはりデメリットも大きい。

介護の仕事は最も重要な仕事は精神面のケア。その手段となる会話は地域の話題が糸口になることが多く、県外利用者に十分なケアが可能な疑問かという。私の祖父や祖母も地域住民との交流が多い。野菜やご飯を交換しあったり、よく楽しそうに話をしている。

ぶうしてここまぶ地域住民と仲が良いのか私も不思議なくらいだ。仕事に出ないない高齢者にとつて地域住民との交流は唯一の社会との関わりだと思う。また、精神面のケアの一つとして家族との面会がある。老人ホーム利用者<sup>が</sup>最も楽しみにし、心を安定させるのは家族との面会らしい。家族との面会が心の安らみであり、幸せな一時であることは間違いない。それが地方移住者だと難しい。県外から家族が面会にくるのは不可能ではないか、

やはり県内からくるのとは比べる回数減るだろうし、時間は短くなるだろう。精神面のケアを工夫していくかが大きな課題だと感じる。このようにメリットもデメリットも多々ある地方移住だが、私は賛成である。将来のことを考えると地方の人口減少問題は無視できない。高齢者が地方移住することによって人口が増加し、消費も増加するのならこれ以上のことはないと思う。しかし、地方への負担が増加するのは目に見えていいる。ただ単に負担の押し

しつけにならないように国がしっかりと地方を支えていかなければならない。その為の制度設計が求められる。

これから人口が増加し続ける高齢者。高齢者が住みやすい国づくりを目指していかなければならない。